

令和2年度
外国人
介護スタッフ
受入施設
事例集

Case study of foreign care workers





目次

| | |
|-------------------------------|----|
| 発行にあたって | 1 |
| 事例集 | |
| 〈EPA〉 | |
| 介護老人保健施設 大分豊寿苑 | 2 |
| 〈外国人技能実習制度〉 | |
| 特別養護老人ホーム 清流苑 | 4 |
| デイサービスセンター ゆいの杜 | 6 |
| 介護老人保健施設 メディケア別府 | 8 |
| 特別養護老人ホーム 日田園 | 10 |
| 介護事業所 ひだまり | 12 |
| 大久保病院 | 14 |
| 特別養護老人ホーム 宇水園 | 16 |
| 介護保険総合福祉センター メルヘン | 18 |
| 〈留学制度〉 | |
| 高齢者ケアセンター 茶寿苑 | 20 |
| 〈定住者〉 | |
| 特別養護老人ホーム 友和苑 | 22 |
| 受け入れる時の準備 | 24 |
| 令和2年度の取組紹介 | 27 |
| 外国人介護職員を雇用できる 4つの制度の概要及び比較 | 28 |
| 外国人介護職員の受入に関する相談先一覧 | 30 |
| あとがき | 31 |

外国人介護スタッフ受入施設事例集の発行にあたって



大分県福祉保健部 高齢者福祉課

課長 黒田 光代

近年、介護現場では多くの外国人の方が活躍しています。

平成20年からEPA（経済連携協定）による介護福祉士候補者の受け入れがはじまり、平成29年9月から留資格に介護が創設されたことに加えて、同11月から技能実習制度に、平成31年4月から特定技能制度に、それぞれ介護の職種が追加されたことにより、今後、ますます多くの外国人の活躍が期待されているところです。

介護を仕事とするために来日される方、日本の介護のノウハウを学び、持ち帰ることで、母国に貢献したいという思いで来日される方など、その目的は様々ですが、深刻な介護人材不足

が続いている中で、介護の現場を希望する外国人の方々には非常に貴重な存在です。私たちには、こうした方々が安心して来県し、継続的に介護に従事できる環境を整えていくことが求められています。

本事例集では、県内で先んじて外国人スタッフを受け入れている事業所における取組事例を通じて、「受け入れ前にはどのような準備が必要になるのか」「外国人の方々に従事する上でどのような困りごとがあるか」などについてご紹介していきます。

今回、本事例集の作成に当たり、訪問調査や事例提供にご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

この事例集をご覧いただく皆様にとりまして、外国人スタッフを受け入れる際の参考になれば幸いです。

令和3年3月

Case study
of foreign
care workers

01



社会医療法人 敬和会
介護老人保健施設
大分豊寿苑

〒870-0131
大分市大字皆春1521番地の1
■ TEL.097-521-0110
■ 外国人介護者 3名 フィリピン

EPA

大分県内で唯一、 EPA制度で 受け入れを実施

大分県内で唯一、EPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補者を雇用している「大分豊寿苑」。平成21年にフィリピンからの受け入れを開始し、トータルでの受け入れ人数は7名。4期目となる今期はフィリピン国籍2名のほか、施設として初の看護師資格を持つ中国国籍1名を受け入れました。

数ある制度の中からEPAを選択したのは、母体である『敬和会』の社会医療法人としての社会貢献意識がベースにあり、今後の介護人材不足も視野に入れながら、という両軸の理由によるもの。人材不足が著しい現在、介護福祉士を目指す学生も減り、「大分豊寿苑」でも新卒

者を採用することが年々難しくなっているのだそう。

「最初は準備が整わないままの受け入れで、言葉や文化の違いなどにとまどいました。でも、回を重ねるうちに職員にも受け入れるのが当然という意識が芽生え、フィリピンのお国柄や文化、習慣なども理解できるようになったことで対処しやすくなりました」と語る看護介護事業顧問の渋谷智子さん。そして、制度の成熟度が増してきたことで、マッチングまでの間に施設と候補生がお互いのことを理解するシステムもできてきたと、年々実感できるようになったそうです。





候補生とスタッフの 両方の努力が報われる 支援を期待したい

フィリピンから受け入れた2名はともに母国の看護大学を卒業。看護師の資格や働いた経験の有無など背景に違いはありますが、看護の知識や実技などは基本は押さえているため、飲み込みが早いという印象を受けたそう。

EPAで受け入れた以上、国家試験を受けて介護福祉士の資格を取得することが前提にあります。施設としても、合格させるために勤務時間内に学習の時間を設けていて、基本的な学習時間は週に10時間確保し、1日2時間、国家試験前になれば半日を費やします。それでも合格率



率は受け入れた7人中1人という狭き門だからこそ、指導するスタッフは合格に結びつけるように日々工夫しているそう。

「候補生たちは資格をとって日本で就労したいという意欲があります。結婚している人も多いので、家族を呼びよせて一緒に生活したいという思いもあります。が、そこに都市部と地方の格差があることは否めません」と渋谷さん。

家族と日本で暮らすとなると、就職や就学のバックアップが必要となります。特に就労のハードルは高く、せっかく資格を取得しても夫の就職先が見つからないため都市部に行かざるを得ないことも実際にあつたそう。「優秀な人材で、今後、受け入れる候補生の学習担当も任せられると期待していましたが、ご家族の生活にベストな選択として送り出しました。一施設でできるサポートは限られているため、それらの整備は今後求められると思います」。

施設の声

看護介護事業顧問・渋谷智子さんより
ワンポイントアドバイス！

施設としてどこまでバックアップできるかを事前に伝えて納得してもらうことが大切。日本語能力もある程度必要なので、事前のリサーチは徹底して行うことをおすすめします。

わたしたちの声

our voice



【左】パラヤ・チンビーさん (31歳、フィリピン出身、通称チムさん)
【右】ブラザン・ジャネッサさん (31歳、フィリピン出身、通称ジャンさん)

家族と一緒に

暮らしたいから

試験に絶対

合格します！

Q 介護の仕事を選んだ理由は？

A チムさん 私は看護師だから、介護の仕事とも関係があると感じていたし、人のケアをすることに興味があつたからです。

Q 大分に来る前に不安は？

A ジャンさん 家族と離れて暮らすことになるから、特に子どもたちのことが心配でした。

Q やりがいを感じることは？

A ジャンさん フィリピンではお年寄りのお世話は家族がします。だから、皆さんのお世話をする時、本当の家族のような気持ちになれ

ることです。

チムさん 看護師の経験を生かして働けることです。そして、日本の皆さんがとても優しくて、いろいろと教えてくれるから知識もたくさん増えました。

Q お休みの日の過ごし方は？

A ジャンさん 料理をしたり、試験の勉強をしたり。漢字が難しく大変だけど頑張っています。

チムさん お休みの日はスケジュールを作って、楽しいことと勉強の時間を作るようにしています。

Q 将来の夢は？

A ジャンさん 子どもたちを大学に行かせてあげたいし、両親の生活も助けてあげたい。そして、家族と一緒に暮らしたいです。

チムさん 子どもたちと早く一緒に暮らしたいから、国家試験に合格できるように一生懸命頑張ります。

Case study
of foreign
care workers

02



社会福祉法人 永生会
特別養護老人ホーム
清流苑

〒870-0218
大分市大字森336番地
■ TEL.097-527-6600
■ 外国人介護者 3名 フィリピン

外国人 技能実習 制度

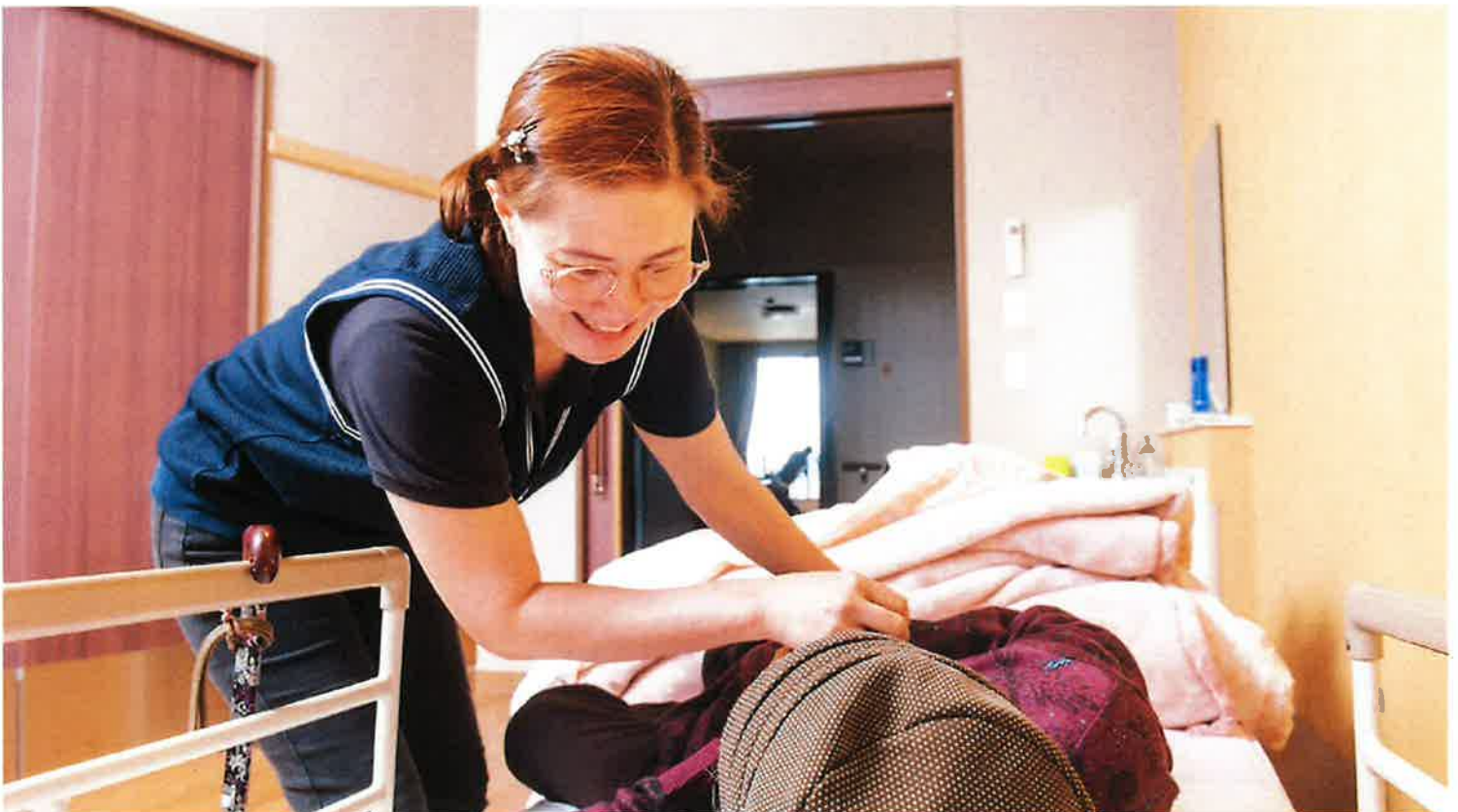
制度への理解を深め 受け入れ体制を整える 研修を複数回実施

特別養護老人ホームやデイサービス、訪問入浴サービス、小規模多機能型居宅介護、配食サービス、認定こども園など多岐にわたって「地域の福祉ニーズ」に応える社会福祉法人「永生会」。

その中の一つ、特養の『清流苑』は、2018年に大分市種貝から森町バイパスのほぼ中心に移転しました。ここは大分市街地へのアクセスが良く、道路の両側には多種多様な商業施設が立ち並んでいるエリアです。

受け入れている外国人技能実習生は、フィリピン国籍の男女3名。他の多くの施設同様に、外国人スタッフの受け入れは初めてでした。

「具体的に受け入れが決まってから、職員全員に研修を行いました。まずは制度についての説明から。足りないところに補充する職員ではなく、ここで学んだ技能を母国で生かしていくための制度であり、ただ単に手伝いの人を雇ったというのではないということを理解してもらいました」とは、生活指導員の佐藤和昭さん。研修の回を重ねる中で、職員の不安を聞き出したり、フィリピンの国民性の理解をさらに深めたり、自分たちが外国に行った時にはどんな状態で迎えてくれたのかなどを話し合った末、受け入れに向けて3つの目標が見えてきたそうです。





相手の立場に立ち、 職員全員で決めた 3つの目標

受け入れ直前のグループワークで、職員から出た心配の内容は、「外国人とコミュニケーションが取れるか」「言葉が通じないので、自分たちの仕事量が増えるのではないか」「日本の介護と外国の介護に違いがあるのではないか」。

そして、自分たちが外国に行くならばどのように迎え入れてほしいかの問いには「笑顔で迎えてほしい」「言葉がわからないから、相手から話しかけてほしい」「同じチームとして扱ってほしい」「差別しないでほしい」など。それらを踏まえ、

「笑顔で話しかける」「相談相手になる」「仲間意識を持つ」という目標を掲げて準備を始めたのだそう。

方向性が決まれば、自ずとやるべきことも決まってきます。顔と名前を認識してもらうために職員全員分の顔写真入りプロフィールカードを作成。体調不良カードで伝えやすい配慮をし、書類関係には漢字にルビをふるなど、さまざまな準備をしました。介護の単語帳は特に秀逸で、

例えばおむつ交換では必要な道具などを一つひとつ写真入りし、日本語に英語併記したものを作成。とてもわかりやすいと実習生から好評だったそうです。そして、相手の立場に立つて、すべきことを決めていくという経験は職員の意識の変化を生み、業務全体の見直しにもつながりました。

施設の声

生活指導員・佐藤和昭さんより
ワンポイントアドバイス！

実習や日本での生活に慣れてきた頃に職員が気づいたことですが、実習生たちは大丈夫じゃない時にも「大丈夫です」と言いがちです。大丈夫の裏には困ったことや心配事など必ず何かあるから、一人ひとりと日々面談することが大切です。本音を言いやすい環境を作ってあげることが必要です。

わたしたちの声

our voice



【左】ドーナ・ベル・グランデさん
(49歳、フィリピン出身)
【右】アンナ・マリー・セロンさん
(32歳、フィリピン出身)

介護の知識と 技術を生かして 将来の仕事に 役立てたい！

Q 介護の仕事を選んだ理由は？

A ドーナさん 私は看護師なので、医療の知識を役立てながら介護の仕事を手伝ってみたいと思ったのがきっかけです。

A アンナさん 私も看護師です。お年寄りのお世話を学びたいと思って、大分に来るまでに日本語と介護の勉強をしました。

Q 看護師の経験は役に立ってる？

A ドーナさん 医療の知識は役立っていると思います。小児科で働いていたから、お年寄りの介護は体重が重くて体力的には大変だけど、

今はもう慣れました！
アンナさん 介護の方法や作業の動きなどは看護師と通じるものがあると思います。

Q 仕事で嬉しかったことは？

A アンナさん&ドーナさん 職員さんが優しく、とても親切なこと。わからないことがあっても、皆さんが丁寧に教えてくれます！

Q 興味を教えてください。

A ドーナさん お料理を作ることです。フィリピンの家庭料理が得意で、よく作ります。

Q 将来の夢は？

A ドーナさん 看護師として働いていた10年間の経験と、ここでの経験を生かして、帰国しても仕事を続けたいと思っています。

A アンナさん 帰国後は、介護の知識や技術、経験を役立てながら看護の仕事に頑張りたいです。

Case study
of foreign
care workers

03



株式会社ケーシーシー
デイサービスセンター
ゆいの杜

〒870-1143
大分市大字田尻53-1
■ TEL.097-578-7766
■ 外国人介護者 2名 インドネシア

外国人 技能実習 制度

文化や宗教を尊重しつつ、 お互いの歩み寄りが 導いた好事例

掲載施設の中で唯一、インドネシアからの技能実習生を受け入れているデイサービスセンター『ゆいの杜』（令和2年10月時点）。受け入れをするにあたり、もっとも心配だった点は、日本とは異なるインドネシア独自の文化や宗教、食事などにどう対応するべきか、ということだったそうです。

「違いを尊重することは大切ですが、それによって日本人スタッフにしわ寄せが来ることは避けなければなりません。お互いが納得して気持ち良く仕事に向き合えるよう、何度も話をしながら調整しました」と施設長の佐藤康子さん。日本で働くこと自体が初めての経験で、慣れ

ないことばかりの2人の技能実習生、リスカ・スサンティさん（26歳）とノフィタ・サリさん（21歳）には、たくさんのサポートが必要です。そして、日本人スタッフに向けるもの以上に気配りをしなければならぬ場面も多々あります。だからこそ、先輩スタッフに我慢を強いるのではなく、サポートしやすい環境を作ることが何よりも大切だったようです。

「始まってみなければわからないというのが本音でした。でも、人手が増えることや元気な若者が加わることに期待が高まり、職員も利用者さんも笑顔で2人を迎えてくれました」。





特別扱いせず、 作り上げた 働きやすい環境

宗教や文化、食事について、どのような対応をしたのかを具体的に教えてもらいました。まずは宗教的なこと。イスラム教徒である2人には1日5回のお祈りのうち、2回が勤務時間内にありますが、同施設の休憩時間は1日1回、1時間。そこで、1日2回、合計1時間の休憩をとることで日本人スタッフと同じ条件になるよう調整し、新たに設けた祈りの場所（相談室を開放）でのお祈りを可能にしました。ヒジャーブ（頭を覆い隠す布）については、作業効率や暑さ対策を考慮



して仕事中は外すことで合意。定期的に行う「おやつレク」では、宗教的に食べられない食材についてどう対応するか、職員同士で意見を出し合いました。

「例えばサンドイッチにハムを使用したら、2人は豚肉が食べられないので試食できません。そのため、具材から外そうという意見もありましたが、職員が食べるためではなく、利用者さんのために作っているという根本を理解すれば、試食できないのは仕方ないと受け入れられるはず。考え方の方向性が決まった出来事でした。」

些細なこととはいえ、「違い」を感じる瞬間は日常的に訪れます。だからこそ、2人を特別扱いするのではなく、「違いがあっても皆一緒」という考えを共通認識にし、日本人スタッフと技能実習生の両方が気持ち良く働きやすい環境をつくることができましたよ。

施設の声

施設長・佐藤康子さんより
メッセージ！

インドネシアの国民性は真面目で日本人の感覚に近いものがあるような気がします。海外からの技能実習生を受け入れるというのは施設として初めての経験ですが、2人の人柄の良さから比較的スムーズに受け入れられました。

わたしたちの声

Our Voice



【左】リスカ・スサンティさん
(26歳、インドネシア スマトラ島出身)
【右】ノフィタ・サリさん
(21歳、インドネシア ジャワ島出身)

利用者さんと

もっと話したいから
大分弁もがんばって
マスターします！

Q 初来日でびっくりしたことは？

A ノフィタさん インドネシアでは家族が家でお年寄りの世話をしますが、平均寿命が短めで70歳以上はあまりいません。だから100歳のお年寄りも初めてで、本当にびっくりしました！

Q きょうだいは何人？

A リスカさん 兄、姉、私、妹2人の5人。妹も国の大学で日本語を勉強しているから、そのうち日本に来るかもしれないですね。

ノフィタさん 私はもっと多くて、姉、兄、姉、私、妹、弟、妹の7人！

Q 好きな日本の料理は？

A ノフィタさん 大分の料理はどれもおいしい。中でも一番はからあげ！

リスカさん ラーメンと焼肉！

Q お休みの日は何してる？

A ノフィタさん 試験前は勉強！あとは日本の皆さんと同じように、日本や韓国のドラマを見まくってます！
リスカさん 料理を作るのが好きで本も買ったけど、漢字が難しくてフリガナもないから理解するのに時間がすごくかかるんです……。でも日本語の勉強だと思ってがんばります！

Q 将来の夢は？

A リスカさん 今は日本語をもっと勉強して話したい。利用者さんともいっぱい話したいから大分弁もがんばっているけど、よだきいとか、くちよんとか、覚えていた日本語と違って、最初はわからなかったですね。

Case study
of foreign
care workers

04



医療法人社団 仁泉会
介護老人保健施設
メディケア別府

〒874-0901
別府市中島町14番6号
■ TEL.0977-21-4333
■ 外国人介護者 2名 フィリピン

外国人 技能実習 制度

国選び、人選び等から 施設側でしっかり 検討していく

「たとえ万全に準備をして受け入れたとしても、食事や文化、宗教があまりにもかけ離れていたら、私達が理解できないことは必ずあるでしょうし、そのために誤解が生じることもあると思います」と語るのは、介護老人保健施設『メディケア別府』副理事長の畑和子さん。「だからこそ、どの国から受け入れるかが最初のポイントでした。その点、フィリピンは主食がお米ですし、他にも色々共通点がありますから」。共通点が多い国」という認識をもっていたフィリピンを紹介されたこと、そして、パートナーを「地元企業」にお願いしたことが受け入れの決め手になったようです。

「受け入れをする上では、どこの監理団体を選ぶかがとても重要になると思います。我々が選んだ地元企業は以前から研修等でお世話になっていた縁もあり、安心してお任せできました」。

人選で特にこだわったのは、女性で性格は素直で優しい子。監理団体から紹介されたアロセナ・イヴェンさんと、ヴィガス・マリア・シャリアさんは、まさに「希望通りの人材」だったそう。

2020年1月に入職し、10月には介護技能実習評価試験と日本語検定N3にも合格。当初から理解力の高さを感じられていた2人は、担当指導員も驚くほどの早さで成長していきました。





吸収の早さに脱帽！ 次のステップに向け、 高まる期待

母国でも大学に進学し、勉強に取り組む姿勢や環境はすでに整えられていた2人。「とにかく勉強する気持ちは強く、日本語も理解できていて会話が問題なくできていることがすごいと思います」とは実習指導員の後藤伸也さん。

実際に業務に携わる中ではどうしても漢字の壁はありましたが、それら表記にすべてルビを打ち、言葉によつてはわかりやすく変換するなどして対応。実技では口頭で伝える前に、実際に目の前で動作をして見せることの繰り返し。車椅子と

ベッド間での移乗やベッドに横になるときの体の向きなどはリハビリスタッフに、歯磨きなどの口腔ケアは歯科衛生士に指導をしてもらい、完璧にこなせるようになるまで繰り返し練習を積み重ねてきた2人。シート交換などの間接業務からスタートしてオムツ交換、歯磨き、トイレ介助などの直接業務へと順調にステップアップしてきた今、第二号技能実習に進むにあたって目標とするのは、しっかりとしたエビデンス（根拠）を理解すること。

「この利用者さんは麻痺があるから、こういう介助をするなど、介護の動作一つひとつに理由があることがわかれば、より質の高い介護を提供することが出来ます。飲み込みの早い彼女たちなら、すぐに理解してもらえると期待しています。」

施設の声

実習指導員・後藤伸也さんより
メッセージ！

試験後のある日、母国の家庭料理でスタッフ全員をもてなしてくれたことがあって、すごく嬉しかったです。心に決めているのは「メディアケア別府に来てよかった、皆に会えてよかった、勉強できてよかった」と、絶対に思わせてあげたいということ。そのためにも、私たちは本気で取り組みます！

わたしたちの声



【左】アロセナ・イヴェンさん
(26歳、フィリピン出身)
【右】ヴィレガス・マリア・シャリアさん
(24歳、フィリピン出身)

方言には

苦勞するけど、
「べっぴん」は
忘れません！

Q 日本に行こうと思ったきっかけは？

A イヴェンさん 日本に行く前に日本語と介護の勉強をして、利用者さんのためにケアをしてあげたいと思ったからです。

シャリアさん 姉が佐伯市に住んでいるので、私も日本で働きたい、生活してみたいと思いました。

Q 日本や大分県印象は？

A イヴェンさん とても美しい国。特に別府は温泉があるから最高！

シャリアさん 清潔で礼儀正しく、食べ物も素晴らしい！ 近所のご焼き屋さんも大好き！

Q 日本語は難しい？

A イヴェンさん & シャリアさん 方言が難しいです。「いらん、おらん、ちゃん」とか。でも、「べっぴん」はすぐに覚えました！

Q お休みの日の過ごし方は？

A イヴェンさん 試験勉強を頑張っています。あとは料理したり、日本のアニメを見たり。お気に入り「ワンピース」です！

シャリアさん 映画を見たり家事をしたり家族と話したり。最近見た映画の中でよかったのは「私、失敗しないので(ドクターX)」です。

Q 将来の夢は？

A イヴェンさん 日本語のレベルを高めることと、家族のために、特に両親のために頑張りたいです。

シャリアさん 永住権を取得して日本で長く働きたい。そして、家族を助けてあげたいです。

Case study
of foreign
care workers

05



社会福祉法人 福寿会
特別養護老人ホーム
日田園

〒877-0061
日田市大字石井字池ノ瀬271番地2
■ TEL.0973-23-3535
■ 外国人介護者 3名 カンボジア

外国人 技能実習 制度

大分県第一号の技能実習生 目的をもって学ぶ姿は 日本人スタッフの刺激に

日田駅から車で約10分の場所に位置する「日田園」は、老人ホームからデイサービス、グループホームなど主に12事業を運営する社会福祉法人福寿会が母体の特別養護老人ホームです。

技能実習制度に介護が追加される前から外国人の受け入れを検討し、早い段階に準備を始めた同園。平成31年3月から大分県内の外国人介護技能実習生受け入れ第一号となるカンボジア国籍のテム・ティリーさん（23歳）とナック・ヴァンナーさん（25歳）が元気に働いています。日本語の習得や介護の技術・知識を貪欲に学ぼうとする2人の姿勢は、日本人スタッフにも多大な好影響を与

えているようです。

「今後、介護職員の確保が難しくなることが予測されていたこと。そして、当園が外国人の技能実習生を受け入れて育成できるだけの成熟度があるのを知りたかったことがきっかけです」と語る、施設長の宮崎隆生さん。

日田市内の全労働人口の2割が医療・介護福祉施設ですでに働いていること、日田市内の人口の約35%が高齢者だという現実、そして職員170名のうち3割が60歳以上であることなど、データをもとに総合的に判断した結果が、技能実習生受け入れにつながったのです。





言葉の壁を越え、工夫した方法が大改革を実現した

技能実習生の受け入れ準備の中で特筆すべきは、職員による介護技能の実演DVDの作成です。動画で繰り返し勉強することで、日本語が得意ではない（または、介護の専門用語が理解できない）技能実習生でも知識と技能を身に付けることができました。同時に、同園が介護指導の弱点として以前から模索していた「人材育成の方法と介護方法の統一」までも改善されたそう。

「介護指導の弱点や内容、指導方針の見直しまで、創設以来の大改革も敢行で



きました。外国人の技能実習生の受け入れという、我々にとって初めてのチャレンジは、組織を大きく成長させるきっかけにもなりました。

2年目担当の技能実習指導員が1ヶ月間の夜勤指導を行い、令和2年5月から夜勤の実践も始まるなど、確実に介護のスキルもアップ。母国を離れて来日した若者の一生懸命でひたむきな姿は、日本人スタッフにとって仕事への姿勢を学ぶ機会になり、笑顔や丁寧な介護は利用者からも高評価のようです。

毎年2名ずつの受け入れを希望しており、先に配属した先輩実習生が後輩実習生を支援するシステムを目指している同園。いずれ、20〜30代は技能実習生、40〜50代は日本人の主婦やパート、50〜60代はケアマネージャーや看護師など専門職というスタッフバランスの実現を思い描いています。

施設の声

施設長・宮崎隆生さんより
ワンポイントアドバイス！

外国人技能実習生の受け入れをする場合、監理団体（組合等）の選定がとても重要です。複数の団体から話を聞き、信頼できるか、自分たちの考え方に合うかなどよく見極めることをお勧めします。

わたしたちの声

our voice



【左】 テーム・ティリーさん (23歳、カンボジア出身)
【右】 ナック・ヴァンナーさん (25歳、カンボジア出身)

将来は国に帰って介護に携わりたい。そして、日本語の先生も目指します。

Q 日本に来てびっくりしたことは？

A ティリーさん 日本に来て特にびっくりしたのは、挨拶です。いつでもちゃんと挨拶しているから驚きました。

Q 日本に来てびっくりしたことは？
A ティリーさん 真冬に来日したから、すごく寒くてびっくりしました。でも、生まれて初めて見た雪はとてもキレイで嬉しかったです。小さい雪だるまも作りました！

Q どんな場所にお出かけした？

A ティリーさん 春のお祭りや、お花見に連れて行ってもらいました。カンボジアではお花見の風習はな

いから、初めてでも楽しかったし桜がきれいでした。今はあまり行けないけど、早くいろんなお出かけができるようになればいいなと思っています。

Q 仕事のやりがいや嬉しいことは？

A ティリーさん 自分の祖父母をお世話できているような気持ちになれること、いつもありがたうって言ってくれるのが嬉しいです。

Q 好きな日本の食べ物は何？

A ティリーさん お寿司！

Q 将来の夢は？

A ティリーさん&ヴァンナーさん 今、カンボジアには介護施設はないけど、将来もし施設ができれば国に帰って介護の仕事に携わりたいと思っています。日本語をたくさん勉強して、日本語の先生も目指したいです！

Case study
of foreign
care workers

06



有限会社 サン・ラポール鶴見
介護事業所
ひだまり
〒876-1202
佐伯市鶴見大字地松浦1250番地
■ TEL.0972-33-0750
■ 外国人介護者 3名 フィリピン

定住者 外国人技能 実習制度

あらゆる壁をなくし、
人と人との関係性を
築くことが大切

「日本人的な考え方もかもしれませんが、
こうあるべきだと固めてしまう傾向があ
ると思うんです。その特有な壁を取り除
いてほしいというのが制度に期待するこ
ころ。国と国、外国人と日本人という枠
組みではなく、私という人間がいて、実
習に来てくれる人がいる。人と人、人間を
ベースに考えることができさえすれば、
とても素晴らしい関係になれると思っ
ています」と語るのは、グループホーム管
理者の前田修二さん。

コミュニケーションの基本となる日本
語での会話が難しかった受け入れ当初、
言葉の壁や文化の壁、人と人の壁を「日
本人同士の間でも当たり前のこと」とし
て捉えることを職員にも心がけてもら

い、「外国人だから」という考えを払拭
することが最初の課題だったそう。

とは言え、「日本人ならこう感じる」「日
本人ならこう忖度する」など、日本では
普通に「なんとなく伝わる」ということ
が通用しない場面も多々。

そんな中で、日本人スタッフへの取り
組みで徹底したのは「違和感」を取り除
くための意識改革。解決法として取り
入れたのが、受け入れ開始から2〜3ヶ
月間、2週間に1度の1〜2時間の勉強
会。日本人スタッフは「伝える」、実習
生は「理解する」ことを目標に、外国人
のために作られた介護の教材を新たに
購入、実習生たちもその思いに応えるか
のように徹底的に学習しました。





理解することから 信頼関係が生まれ、 関係性がスムーズに

2020年3月に入職したフィリピン国籍の2名の実習生を、それ以前から受け入れていたモンゴル出身のスタッフ（定住者）が教育の一部を担っていたというのも特徴。

外国人スタッフが外国人実習生を教えることのメリットは、「日本人が言うよりも内容が通じたり、苦勞を理解してあげられるということ」。日本に来て約10年というこの外国人スタッフは、日本に対しての理解があり、「日本はこういう国で、こういう考えをする」と、わかりやすい言葉で伝えてあげられることが大きなメリットでした。



もちろん、互いに意思疎通ができる部分がある一方で、理解しづらい部分や行き違いもあったそうですが、そのたびに個別の面談を行い、お互いに聞きやすい、話しやすい雰囲気を作ってあげることが心がけていたそうです。

「国籍の違い、文化の違いから生じる不安や行き違いはどうしてもおこるもの。外国人と一緒に働くことについて、最初は『どうして外国人と働くのか』『外国の人とどうかわかっていいかわからない』などの声も多数あり、習慣や日常のささいな出来事など、頭では理解していても実際に受け入れるとなると話は別、というのが本音だったようです。

「外国人に対する不安は、知らないからこ生まれるもの。受け入れの心構えを持つという以前に、その国の文化や感情の動き方などを知ることができれば、きつとうまくいくはずですよ」。

施設の声

管理者・前田修二さんより
メッセージ！

外国人介護人材スキルアップ研修にも積極的に参加していて、そこで得る知識や他施設との関係にも期待しています。外国人が働いている事務所や企業はほとんど活用してほしいですね。

わたしたちの声

Our Voice



【左】ラケル・タグレ・ベルトランさん
(40歳、フィリピン出身、通称ケリーさん)
【右】カピシダン・プリンシズ・アンジェラ・エレバさん
(25歳、フィリピン出身、通称シズさん)

勉強も仕事も
もっと頑張って、
将来は日本に
住みたいです！

◎ 仕事で嬉しいことは？

A ケリーさん 方言が勉強した日本語と違うから難しいけど、本当のおじいさん、おばあさんのように優しく接してくれるし、とても仲良くしてくれるのが嬉しい！

A シズさん 利用者さんと一緒に散歩して、笑ったり話したりする時は嬉しいです。いろいろ教えてくれるし、「いぬる」「よだき」とか方言も慣れてきました！

◎ お休みの日の過ごし方は？

A シズさん フィリピンの実家の近くにも海があったのに全然行かなかったけど、近くの海に一人で行って眺めたりしています。心がスッキリする感じなんです！

◎ 将来の夢は？

A ケリーさん&シズさん 日本の永住権を取りたい！ とても平和な日本にずっと暮らすために、もっと勉強して仕事も頑張ります！

◎ 介護の仕事を選んだ理由は？

A ケリーさん フィリピンでは病院で2ヶ月働いていて、その時に介護の仕事も経験しました。外国で働くのは初めてだけど、チャレンジしたいと思って選びました。

◎ 大分に来る前に不安は？

A ケリーさん 日本は初めてだからとてもドキドキしていました！
シズさん 勉強しながら働くことに対してのストレスが心配でした。あとはホームシック。家族と離れることに不安も感じました。

Case study
of foreign
care workers

07



社会医療法人社団
大久保病院

〒878-0204
竹田市久住町大字栢木6026-2
■ TEL.0974-64-7777
■ 外国人介護者 3名 ベトナム

外国人
技能実習
制度

慢性的な人材不足を
解消できる近道が
制度の導入だった

2019年5月からベトナム国籍の実習生3名の受け入れを実施している「大久保病院」は、大分県屈指の観光地である久住町にあり、創設100年の歴史ある病院です。

病院の他に、介護老人保健施設やグループホーム、訪問看護ステーション、ホームヘルプセンターなどの関連施設を持っています。地域の人々が住み慣れたこの地で最期まで暮らせるように「いのちと健康・暮らし」を守るために取組み、地域住民のためにはなくてはならない存在です。

しかし、悩みは人材不足。竹田市の人口減少や高齢化は深刻で、人員確保に苦

慮し大きな課題となっていました。

そこで、目を向けたのが外国人の採用。日本人にこだわらず、外国の方々が一緒に働いてくれることが一番の解決策になると考え、受け入れを決めたそう。

外国人をスタッフとして迎え入れるのは施設として初めての経験です。制度について、多方面から話を聞いた上で導入を決めようと、受け入れの約2年前から説明会などに参加して理解を深めたり、実際のお世話から業務の指導までを想定した準備を開始。近隣にアパートなどがないため、実習生には自宅の部屋を提供するなど、受け入れ体制を整えていきました。





外国人と働くという 初めての経験は 試行錯誤の連続

「想定していたより言葉が通じなくて、最初はとてんどまどいでした。簡単な言葉でコミュニケーションをとることから始め、最低限知っておいてほしい介護の知識や日本の文化を、工夫しながら教えていきました」と語るのは、3人の実習生の指導を担当する介護副主任の伊東翔子さん。カタカナも苦手な最初は「はい」「いいえ」さえも伝わりづらいなど日本語の習熟度が低かった実習生にとって、介護の専門用語を理解したり、実技を覚えたりするのはとても大変なこと。実技を



行いながら「コミュニケーションは、2人以上で話すことをいう」「アイスノンは身体を冷やすもの」「ホットパック」は身体をあたためるもの」など実習生たちが理解できる簡単な言葉に言い換えながら何度も繰り返し、一言ずつ意味を確認しながら、時にはジェスチャーを加えながらの指導だったそうです。

「最初は同じベトナム人として3人と接していましたが、時間が経つにつれそれぞれの個性が見えてきて、実習生一人ひとりに応じた教え方や接し方ができるようにになりました」と伊東さん。1年目は一人で3人を指導していましたが、日本に慣れて言葉も理解できるようになった2年目からは他のスタッフにも任せられるように。「自分たちが教えないといけない」という意識が生まれ、仕事の基本に立ち戻ったり、見直しをしたり、業務改善にもつながっているようです。

施設の声

介護副主任・伊東翔子さんより
メッセージ！

期待しているのは、ベトナムに介護の知識を存分に広げてくれること。しっかりと身に付けてもらって、一人でも多くのベトナムの方に伝わってくれたら嬉しいですね。

わたしたちの声



【左】 マイティ カインさん (21歳、ベトナム出身)
【中】 グエン ティ アイさん (31歳、ベトナム出身)
【右】 グエン ティ ホアン スオンさん (24歳、ベトナム出身)

日本語が難しくくて 大変だけど、 頑張ってる覚えて 仕事に生かします

Q 大分に来る前に不安は？

A カインさん 日本語が難しくくて、ちゃんと話せるか不安でした。でも、毎日勉強して少しずつ覚えていきました。

Q 母国ではどんな勉強をした？

A スオンさん & アイさん 日本語を勉強しました。

A カインさん 日本語と介護の勉強をしてきました。

Q 大分県印象は？

A スオンさん 山が多くて道が険しいです。冬は寒いですね。
アイさん 山が多くて静かです。

Q 日本で行ってみたい所は？

A アイさん いろんな場所に行ってみたいです。例えば、大阪や東京など！

Q お休みの日の過ごし方は？

A スオンさん 勉強したり、買い物に行ったりします。

A アイさん 買い物に行ったり、映画を見たり、勉強もします。

Q 好きな料理は？

A アイさん 寿司とたこ焼き！
カインさん 何でも好きですが、特に刺身です！

A スオンさん ちゃんぽんと焼肉です！

Q 趣味は？

A アイさん 映画を見ることです。
カインさん 料理を作ることです。

Q 将来の夢は？

A カインさん 介護の仕事を続けたいです！

Case study
of foreign
care workers

08



社会福祉法人 宇水会
特別養護老人ホーム
宇水園

〒879-0456
宇佐市大字辛島299番地の2
■ TEL.0978-33-0111
■ 外国人介護者 3名 中国・カンボジア

外国人 技能実習 制度

実現できるか否かは
受け入れる側の
気持ちや考え次第

終末期（看取り）の体制が充実しており、春には新しくクリニックが開院とますます介護と医療の充実を図っている『宇水園』。また、施設内にコンサートや映画鑑賞会が開ける200名収容の「エリザベートホール」を活用し、利用者さんとそのご家族だけでなく、地域の方々にも開かれた施設を目指しているそう。

施設の立つ宇佐市がある県北地域は福岡県に近く、一見、立地的に問題がなさそうですが、様々な職種において人材不足に悩まされており、中でも介護職は求人をかけてもなかなか人が集まらず、どの施設もとても深刻な状況なのだそう。

「最初は、外国人をスタッフとして迎

え入れることには抵抗がありました。文化や生活様式、宗教の違いをどう理解したらいいのかわからないというのが正直な気持ちでした」と理事長の石田敦子さんは外国人採用に躊躇した当初を振り返ります。「何より日本人スタッフと馴染むことができるだろうかという心配が大きかったですね」。

考えが変わったきっかけは、「施設でも国の制度で受け入れれば国と国との関係になります。異国に一人である若者に対して、受け入れる側として真摯に対応することが小さな国際交流だと思えるようになったからです」。





礼儀正しく勉強熱心、 にこやかな笑顔が ご利用者を癒す

現地での面接から約1年経った2019年11月に第1号としてカンボジア国籍の実習生2人、そして同日に中国籍の実習生1人を迎えた「宇水園」。

「個人差はありますが、日本語の理解がある程度出来ていたので指導する上で特に大きな問題はありませんでした」と主任生活相談員の島田憲二さん。唯一、気を付けていたことは「ごんごん」「ピカピカ」など日常会話で使いがちな日本語特有の表現を別の言葉に言い換えたり、受け取り方で変わってしまうような曖昧な

指示をしない、ということだったそうです。

受け入れから3ヶ月間は、午前中を日本語学習にあてて介護や医療の専門用語を中心に学習。その他にネット配信されている教材や日本の昔話の絵本なども活用して反復学習をするなど日本語の強化を行い、日本語のスキルを上げていった実習生たち。午後からは指導者に付いたの現場実習で介護技術を着実に身に付けていったそうです。勉強熱心な実習生は習得も早く、食事・入浴・排泄介助、口腔ケアなどの業務はもちろんのこと、夜勤業務にも早い段階で入ることができるようになりました。そんな彼女たちの存在は日本人スタッフの意欲を刺激し、満面の笑みが利用者さんの気持ちをも明るく癒すなど、今では施設全体がより活気づくという相乗効果が生まれています。

施設の声

理事長・石田敦子さんより
メッセージ！

日本に移住してもらえたら本当に有難いですが、帰国しても日本で身に付けた技術や文化を広めてくれることで、日本を好きになる人や日本に来たいと思う人が増えるなど、施設でもできる国際交流の可能性に期待して、今後も積極的に実習生を受け入れようと考えています。

わたしたちの声

Our Voice



【左】 王紅梅さん (42歳、中国出身)
【中】 ウーン・スレイネアトさん (22歳、カンボジア出身)
【右】 ロン・ベアクリカーさん (24歳、カンボジア出身)

3人それぞれ、
思い描いている
未来に向かって
頑張ります！

Q 介護の仕事を選んだ理由は？

A ネアトさん カンボジアには介護の仕事がなくて、新しいチャレンジがしてみたかったから。

リカーさん 介護の仕事を知りたいと思ったし、日本語を勉強したから日本での生活も経験してみたかったからです！

王さん 中国でも介護の仕事をしてきたから、スキルアップのために日本に勉強に来ました。

Q 日本や大分県の印象は？

A ネアトさん みんなとても優しいし、料理もとてもおいしいです。

Q 将来の夢は？

A ネアトさん 私の国では介護の勉強ができる環境がないので、困っている介護が必要な人たちが、そして国を助けることができる人になりたいです。

リカーさん 介護の勉強をして両親を最後までお世話してあげたいです。そして日本での色々な経験を活かしてビジネスができればいいなと思っています。

王さん 勉強して今よりもっと日本語が上手になりたいです。そして、皆さんのお世話をしたいです。

Case study
of foreign
care workers

09



社会福祉法人 大樹会
介護保険総合福祉センター
メルヘン

〒879-4601
玖珠郡九重町右田3156-7
■ TEL.0973-76-2100
■ 外国人介護者 3名 ミャンマー

外国人 技能実習 制度

早い段階で外国人を
受け入れた経験は
プラスになると期待

大分県中西部に位置する九重町は、阿蘇くじゅう国立公園に含まれる飯田高原やバラエティ豊かな温泉郷、そして、人が渡る吊り橋としては日本一を誇る、夢の大吊橋など、自然をダイナミックに感じられる観光スポットを有するエリアです。それら観光地では多くの人出で賑わいを見せませんが、生活圏としては人口減少、高齢化が深刻です。「大樹会」が運営する介護保険総合福祉センター「メルヘン」も例にもれず、常に人員確保は課題になっているそうです。

「人手不足は介護だけの問題ではなく、あらゆる業種に共通することです。よね。今後、日本に外国人が増えてくるのは明

らかな中、早い段階で施設として受け入れたことは、様々な面でプラスになるだろうと思っています」と語る、センター長の武田恭徳さん。

予定よりも来日が1年近く遅れるというアクシデントもありましたが、2019年9月にミャンマーからの実習生3人を無事に迎えることができました。

「私も含め職員全員、ミャンマーの人と出会うことが初めてで、最初は不安もありました。でも、顔つきは日本人に近く、会話も日本語のできるもので、すんなりと受け入れることができましたね」。





指導にも影響する 語学力が当初から 抜群のレベル

来日が遅れるというアクシデントが逆に功を奏したのは、実習生の語学力が飛躍的に上がったこと。事前アンケートの回答には漢字がふんだんに使用され、「仕事で一番大切なことは、傾聴、受容、共感だと学びました」「将来の夢は介護の先生です」「ミャンマーに介護の施設を建てたいです」など、しっかりとした言葉で記入されていました。

受け入れ当初から会話もほぼ完璧にマスターしていて、武田さんも「流暢な日本語で、違和感がまったくなかった」と驚くほど。3人とも日本語での「コミュニ

ケーションが可能なため、特別なマニュアルは準備せず、指導方法は現場で実際に教え、覚えてもらうという形をとることができたそう。

「言葉の壁が低ければ低いほど、マニュアルは必要ないと思いました。漢字にルビをふるなどもしなくていいレベルだったので、指導するリーダーたちも教えやすかったと思います」。

外国から来た実習生たちは、「働く」という明確な意思のもと、親元を離れて日本に来ています。そこに「強さを感じる」と武田さん。働く上での覚悟を感じられたことや、日々の仕事に対する姿勢などに日本人スタッフも刺激され、「もっと教えてあげたい」「こんな風に業務を改善しよう」と、今まで以上に積極的に仕事に取り組むようになるなど、施設にとっても実習生はとてもいい存在になれているようです。

施設の声

センター長・武田恭徳さんより
メッセージ！

文化の違いや料理の違いなどを知れば、コミュニケーションがとりやすくなります。コロナ禍の今、実際に行くことができないからこそ、実習生の母国を事前に勉強することをおすすめします。

わたしたちの声

our voice



【左】 ニン・ユ・ラインさん (28歳、ミャンマー出身)
【中】 ティン・ヌエ・トゥエさん (25歳、ミャンマー出身)
【右】 ウエイ・ウエイ・ミエさん (26歳、ミャンマー出身)

技術と知識を 身につけて、 将来の仕事に 役立てたい！

Q 日本語をどこで学んだ？

A ラインさん&ヌエさん&ウエイさん
来日前に1年半勉強しました。ゼロからの勉強だったけど、日本人の先生が「あいうえお」から順に教えてくれて、わからない漢字はすぐに携帯で調べられるようにしながら覚えていきました。

Q 日本や大分県の影響は？

A ラインさん 文化が似ているようで少し違います。目上の人の前で腕組みをするのはミャンマーでは尊敬の意味だけど、日本では失礼になると知って驚きました。

Q 趣味は？

A ラインさん 読書と旅行です。新しいものを見たり体験したりするのが好きですね。早く着物も着てみたいです！

Q 将来の夢は？

A ヌエさん ミャンマーに介護の施設を建てて、介護の仕事がずっと続けていきたいです。

A ウエイさん 技術を身につけて、国に帰ったら介護の先生になりたいです。介護福祉士の資格もほしいし、私たち実習生が頑張ったら国の人も嬉しいと思う。

Case study
of foreign
care workers

10



社会福祉法人 恵愛会
高齢者ケアセンター
茶寿苑

〒874-0041
別府市北鉄輪3組
TEL.0977-66-5021
■ 外国人介護者 2名 ミャンマー

留学生
アルバイト

介護の道を目指す
学生たちを受け入れ、
資格取得をサポート

外国人介護職員を雇用できる4つの制度の中で、「日本の介護福祉士養成校に通う留学生を受け入れて、介護福祉士を目指してもらう」ルートを選択した高齢者ケアセンター『茶寿苑』。

コロナ禍において、日本への渡航制限や延期によるビザ発給の遅れなどのアクシデントがあり、当初の3月入国予定から7ヶ月遅れで来日したミャンマー国籍の留学生2人。別府市の溝部学園短期大学介護福祉学科（留学生コース）に所属し、現在、学業とのバランスをとりながら、アルバイトとして『茶寿苑』で働いています。

きっかけは、短大の副学長と外国人留

学就労支援協会代表理事・松見俊信さんからの「ミャンマーの留学生を受け入れてみませんか」という打診。

「短大は日本人の学生が少なくなっていて、当施設は新卒の採用が難しくなっていました。私自身、ビルマ（ミャンマーの旧国名）が好きだということや、タイミングとしても合っており、他に選択肢もなかったため制度を利用してみようと考えようになりました」とは理事・施設長の瀬戸正毅さん。「いい人材がいなければ断ってもいい」という思いでミャンマーへ渡り、短大進学予定だった女性3名と男性2名の面接を行ったそうです。





将来の介護のプロを 育てる責任を もつことが大事

彼らが活用している介護福祉士修学資金貸付制度の償還免除要件の1つに、特定業務従事期間5年という条件があり、学生時代の3年間をあわせて、トータル8年間を日本で働くことになるため、人選のポイントは「日本で働くことに対して、覚悟を決めているか」「しっかりと夢や目標をもっているか」。面接した5名全員にその強い意志が感じられ、最終的に男性2名の受け入れを決意。来日が大幅にずれ込んだ分、彼らには日本語のスキルを磨くことを指示し、職員は受け入れるための準備を進めていきました。

「3年間のアルバイトの中で何を教え



ていくのか、リーダーたちと時間をかけて教育指導法やスケジュールを組み立てていきました。今は食後の下膳やシーツ交換の手伝い、食器洗い、清掃など介護業務以外の雑務がメインになりますが、2人とも優秀で覚えが良かったため次のステップにもすぐに進めそうです」

留学生の勤務時間は制度で決まっています。現在の勤務時間は1週間に25時間。学校の授業がない日、勉強に支障がない日などと、配慮をしながら勤務時間を決めていますが、単身で日本に来た2人には「親にも仕送りしたい」という思いがあったそうです。

「今は学業が仕事なのだから、学生の間は介護や日本語の勉強に専念するようにと話しました。何のための介護の勉強なのか、なぜ日本に来たのか。すべて、誰のためでもない自分のためです。初心を忘れず、しっかりと頑張ってくださいね。」

施設の声

理事施設長・瀬戸正毅さんより
メッセージ！

帰国したら彼らはミャンマーで茶寿苑式の介護をすることになります。「これが日本のスタンダードだ」と自信をもって働く人材を育てるためにも、職員全員気を引き締めています。

わたしたちの声

our voice



【左】アウンコーウーさん
(31歳、ミャンマー出身)
【右】ジョセフさん
(20歳、ミャンマー出身)

学校と施設で しっかりと学び、 介護のプロを 目指します！

Q 介護の仕事を選んだ理由は？

A アウンコーウーさん 国でお年寄りのお世話をした時に、とてもやりがいがある仕事だと思ったからです。ジョセフさん ミャンマーでも今からお年寄りが増えてくるので、国のため、自分のために介護の仕事を目指そうと思いました。

Q 初めての日本の印象は？

A アウンコーウーさん 私たちの国の人たちより、もっと優しく、気持ちもオープン！笑顔も素敵です。もっとコミュニケーションがとれるように日本語を勉強します。

ジョセフさん 街並みや環境を大事にする国だと思いました。日本は技術などが上達していて、知識を得る機会も多いと思います。

Q 日本の料理はおいしい？

A アウンコーウーさん&ジョセフさん 何でもおいしいけど、特にちゃんぽんがおいしかった！

Q 趣味は？

A アウンコーウーさん 行ったことがない場所へ旅行するのが趣味です。新しいものや珍しいものを見たりするのがとても好きですね。

ジョセフさん サッカーと音楽鑑賞です。大分でも仲間とサッカーができたらいいですね。

Q 将来の夢は？

A アウンコーウーさん&ジョセフさん 介護福祉士の資格をとって、ずっと仕事を続けていきたいです。そのために、日本に来ましたから。

Case study
of foreign
care workers

11



社会福祉法人 豊心会
特別養護老人ホーム
友和苑

〒874-0022
別府市亀川東町8-20
■ TEL.0977-66-0007
■ 外国人介護者 7名 フィリピン

定住者

同郷、そして永住まで、
環境が同じだからこそ
ともに高みを目指す

多国籍な学生が通う大学から飲食店など様々な業種にわたり、「国際色豊かで自由な町」という印象が強い別府市。特別養護老人ホーム『友和苑』の母体である社会福祉法人豊心会もまた、前例に捉われないユニークな発想のスタッフメイキングを特徴とした施設です。

現在、法人全体で働くフィリピン出身のスタッフは男女合わせて15名。全員、日本国籍を取得した定住者で、中にはすでに来日30年経つ人もいるそうです。そのうち『友和苑』には7名が在籍。河野ジュディスさんが第一号として入所し、その縁を通じて友人・知人が次々と働くようになり、現在の人数まで増えました。

「フィリピン出身のスタッフの魅力は、男女ともにとにかく明るくて優しいということ。利用者さんとご家族に好かれていて、勤務がない日は寂しがられるほどなんですよ」と、施設長の宮脇命人は語ります。

大半が既婚者で別府市またはその周辺に家族とともに暮らし、悩みや相談事も皆で共有するフィリピン出身者のコミュニケーション。仲の良い同郷の友達という不変の関係性を保ちつつ、働く現場ではお互いが刺激し合い、介護の技術や知識を高める環境を作り上げているようです。





介護福祉士の資格取得に向けて

挑戦中！

日本に長年住んでいるとはいえ、元来持ち合わせている国民性や文化などの違いはあります。その中で、施設側としてもっとも気を配っていることは、国単位ではなく、一人ひとりの考えやライフスタイルを尊重する。本人が希望し条件が合えば正社員として働くことができ、育児など家庭が優先であれば臨時雇用も可能。技術や知識を身につける方法やスピードは個々のレベルに合わせてユニットごとに配されたリーダーが中心となり指導します。

「ベテランのスタッフは介護のプロですが、教えるとなると別のスキルが必要です。自分のペースではなく、相手に合わせ、理解してもらうまで根気強く向き合うことが求められます」。

日本語ならではの独特なニュアンスは伝わりづらく、なかなか理解してもらえないなど悪戦苦闘もあったそうですが、簡潔な言葉に置き換えて説明することでその壁をクリア。何か問題が起これば放置せずに解決法を見つけるまで議論してきたことで、施設全体の士気も高まりました。

最年少のカラビグ・アンドレアさんをはじめ、いずれは介護福祉士の資格取得に挑戦したいと、高い目標を掲げているスタッフも。試験にかかる費用や有給休暇、過去問指導など具体的な支援にも取り組んでいます。

施設の声

施設長・宮脇命人さんより
ワンポイントアドバイス！

唯一、勤務中に禁止したことは、利用者さんやご家族の前で母国語を使うこと。焦ったり不安な時ほど無意識に出るようですが、その場にいる人たちは言葉の意味が理解できずにもっと不安な気持ちになってしまいますよね。

わたしたちの声

our voice



【後列左から時計回りに】
小坂マイラさん
河村アンズレスさん
河野ジュディスさん
カラビグ・アンドレアさん
阿部エミリーさん
村上ジンロウレンスさん

友人同士、悩みや相談も共有できるから安心です！

Q やりがいや嬉しいことは？

A ジュディスさん 入所者さんを家族のように感じられること。私たちがとっての介護職は、親と接するよう自然な気持ちで働ける仕事だと思えます。

ジンロウレンスさん 入所者さんが別府や大分県の昔の話をしてくれるのがとても面白いです。50年、60年前の話など理解できないことも多いけど、そういう会話のコミュニケーションションもとても楽しいですよ。
エミリーさん 毎朝、元気な挨拶と笑顔でスタートできるし、介護の仕

Q 働き始めたきっかけは？

A アンズレスさん ジュディスさんに誘われました。同じいる全員、以前の友達だから、悩みや相談事も皆で共有できるしすぐに解決できるので、とても嬉しい働きやすいです。

Q 将来の夢は？

A カラビグさん 新しい世界でチャレンジしてみたい、技術も身に付けたいと思って始めた仕事。いずれ介護福祉士の資格を取りたいと思っていますので、難しい漢字もがんばって覚えます！

受け入れる時の準備

(一例です)

大分県では、安定的かつ継続的に介護人材を受け入れるスキームを構築するためのモデル事業を実施し、令和元年度は、ベトナム人研修生3名を、10月下旬から1月下旬にかけて迎え入れました。3名の受け入れに協力をお願いしたのは、特別養護老人ホーム若葉苑、特別養護老人ホーム創生の里、ケアハウス豊友館の各施設で、単なる介護技術や知識の伝達のみならず、日本文化、日本人の考え方や、大分県の魅力を伝えることに尽力いただきました。この時の経験を踏まえて、受け入れに際しての準備を次のとおりご紹介します。



介護を学びに来た研修生

Q 住まいはどうしたのですか？

A ケアハウス豊友館のご協力で、各施設まで自転車で通える距離にある住まいを確保しました。3名とも同じ部屋で過ごしました。

Q どんなものを準備しましたか？

あくまで一例ですが、このようなものを用意しました。

【家具】

- テーブル
- 椅子
- ⇒ 食事・勉強をするために設置しました

【衣類の整理用品】

- 衣類用ハンガー
(備え付けのクローゼットがあったので)
- 靴下を入れる小ダンス

【寝具】

- しき布団・かけ布団
- 毛布(冬)
- まくら

【キッチン用品】

- フライパン・なべ
- 包丁・まな板
- おたま・フライ返し
- やかん・ポット

- 炊飯器・しゃもじ
- 冷蔵庫
- コンロ
- 電子レンジ
- ボウル・ざる
- 缶切り・栓抜き
- タッパー
- ふきん
- 三角コーナー
- 洗剤・スポンジ
- 食器乾燥機 など

【食用品】

- お皿
(大中小、深さのあるもの)
- おわん
- コップ
- スプーン・フォーク
- おはし など

【風呂まわり】

- 洗面器

- 椅子

【掃除用具】

- ほうき
- 雑巾・バケツ
- コロコロクリーナー
- 風呂掃除用具
- トイレ掃除用具
- 掃除機

【その他】

- Wi-Fi 設備
- 分別ができるゴミ箱
- カーテン
- 照明器具
- 洗濯機・物干し
- 冷暖房
- 時計
- 自転車
- 懐中電灯
- 温度・湿度計



Q 移動には何を使っていましたか？

A 施設には自転車で、介護研修センター等遠方に行く時は公共交通機関を使っていました。



Q 細かいものや消耗品は研修生が準備したのですか？

A 到着してすぐに、シャンプーやリンス、調味料などは自分たちで(スーパー等で)調達していました。それぞれ、香りの好み、味の好みもあるでしょうね。

Q 来日して最初にまず何をしてあげましたか？

A 基本的なルール（ごみの分別等）について説明をしました。まずは、近所の案内（スーパーやコンビニ、緊急時の避難場所、ごみ捨て場など）、そして経路の確認のために、一緒に自転車に乗って各施設まで行きました。また移動の練習をするために、バスに乗る練習もしました。

Q 文化の違いによるトラブルや困ったことはなかったですか？

A トラブルにはなっていませんが、来日直後、近所の柿の木を見て「見て、おいしそうなお柿がなっている！食べたいね！」と歓声をあげていたのが、「日本では、道端の柿の木でも他人のものなので、勝手にとってはいけない」ことを説明しました。

Q 大分県にいる間の連絡はどのようにしていたのですか？

A 3名に1台、携帯電話を貸与しました。でも、家にいるときは、Wi-Fiが使えるので、業務連絡はLINEが多かったですね。

Q 研修がお休みの日はどうしていたのですか？

A 「ゆっくりしたい」という日は、干渉せずに、ゆっくり休んでももらいました。一方で日本文化を学んでもらうことも目的の1つだったので、華道を体験してもらったり、浴衣を着て各施設のお祭りに参加したり、またそば打ちや地獄めぐりも体験してもらいました。



研修受け入れ施設の皆さんはどのような感想を持ちましたか？

今回は特別養護老人ホーム若葉苑、特別養護老人ホーム創生の里で、それぞれ約1ヶ月、介護体験を受け入れていただきました。それぞれの施設で受入前後で

実施したアンケートによると、「Q：外国人労働者を身近な存在として感じますか？」の問いに対して「感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合が、各施設（前）30%↓（後）63%（前）33%↓（後）55%と大きく上昇し、

「Q：外国人介護職員とともに働くことに対する違和感はありませんか？」の問いに対して「ない」「どちらかといえばない」と回答した割合が（前）30%↓（後）58%（前）48%↓（後）51%と増加しました。短期間であっても実際に関わりを持つことで、印象は大きく変わったようです。

感想を一部ご紹介すると、

（良い点）

・常に謙虚でわからないことを調べる姿勢が、私には最近不足していると感じ刺激になりました。

・柔軟性があり学ぼうとする姿勢があった為、こちらもきちんと教えないといけないと思いき、自分自身も成長する機会になったと思います。

・学び取るという姿勢は日本人より上かもしれません。お互い向上していける要素はあると思います。

（課題等）

・伝わるのに時間がかかるため、時間に余裕は必要だと思いました。言語だけでなく、動作等も手順の統一を行い、体験をしてもらう方が良いと思います。

・言葉で伝える難しさや、日本での生活習慣の違いを理解してもらう事が大変だと思いました。

・今後外国のメンバーと働く時代になってくるのなら、研修を受ける部署が偏るより、各ユニットや部署を回り、全体的に盛り上げ学んでいくべきだと思います。

…というご意見が聞かれました。

Q5

利用者さんに受け入れてもらえるか、また文化的な違いや、宗教的な配慮など不安が多いのですが…

A5

今回ご紹介した施設では、利用者さんやご家族にもきちんと説明、紹介することで、スムーズな受入れにつながっているようでした。「(むしろ利用者さんの方が色々と声をかけてくれるんですよ)」という声は複数の施設で聞かれました!) また文化的な違いや宗教的な配慮についても、職員同士でしっかり事前学習、協議をすることはもちろん、当事者である外国人介護スタッフとも互いによく話し合い、ルールなどを決めていくことが大切です。例えば、今回の掲載施設以外でも、イスラム教徒のお祈りの場所については、部屋を別に設けられない場合は、パーティションで区切ってスペースを確保しているという事例や、キリスト教徒であるスタッフのために、近所の教会を調べて、情報提供したという事例も耳にしました。大切なのは相手を尊重する気持ちです。

Q6

留学生をアルバイトで雇用する場合、労働時間等に配慮が必要と聞いたのですが？

A6

留学生は予め入国管理局で資格外活動の許可を受けなければなりません。また週28時間以内勤務、事業主は労働条件の書面による明示や労災保険への加入などの義務が発生します。

Q7

介護福祉士留学生が、介護福祉士養成校に入学するにあたって必要な費用の支援が受けられるのでしょうか？

A7

介護福祉士等養成施設に入学する方に対し、修学資金を貸し付ける制度があります。卒業後、介護福祉士として大分県内で5年間介護業務等に継続従事すれば貸付金は全額免除となります。詳しくは大分県社会福祉協議会にお尋ねください。

Q8

先日、外国人介護スタッフを受け入れたばかりです。日本語力アップのために支援をしたいのですが、何か良い教材がありませんか？

A8

左ページで紹介をしている県内で開催する研修会や、アドバイザー派遣事業をご活用ください。また、無料ウェブコンテンツ「にほんごをまなぼう」を活用しているというお声を耳にします。「にほんごをまなぼう」は、現場で働く外国人のための総合プラットフォームとして、日本語能力の向上、介護現場で必要とされるスキルの習得をしっかりとサポートしています。



Q1

「受入を考えてみようかな…という気持ちになったけど、全く制度がわかりません」どこに電話したらいいですか？

A1

大分県であれば、P30に掲載している、大分県高齢者福祉課や、大分県社会福祉協議会にまずはご連絡ください。(令和2年度から左ページにあるようなアドバイザーによる相談、訪問型での相談支援も実施しています。)

Q2

アドバイザーにはどのような人がいるのですか？

A2

外国人介護スタッフを受け入れている施設の職員さん、受入支援をしている団体の方、外国人の相談支援を実施している方、外国籍の方で現在大分県に在住の方など、様々な方に登録いただいているので、相談内容に応じてご紹介いたします。

Q3

訪問介護事業をしているのですが、外国人スタッフを受け入れられるのでしょうか？

A3

技能実習制度、特定技能制度は、訪問系サービスは対象外となっていますが、介護職員初任者研修を受講修了すれば受け入れられます。留学生や定住者等、対象が限定されていない制度の場合は、受け入れられる可能性はあるので、大分県高齢者福祉課や大分県社会福祉協議会にお尋ねください。

Q4

技能実習・特定技能制度は、訪問系サービス以外は全て外国人介護スタッフの受入が可能ですか？

A4

養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウス、有料老人ホーム等、一部の事業種別においては要件があります。詳しくはP30に掲載している、大分県高齢者福祉課や、大分県社会福祉協議会にお尋ねください。



令和2年度の取組紹介

大分県では、外国人介護人材受入推進のために、様々な取組をしています。その一部をご紹介します。



外国人介護人材受入推進セミナー

これから外国人介護スタッフの受入を考えている施設、または既に外国人介護スタッフを受け入れている施設の方々を対象に、外国人受入に際しての社会保険制度や労働法制、各種受入制度、また実践報告等のテーマで、全3回セミナー（9月、12月、2月）を開催しました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に配慮し、集合型とオンラインのハイブリット方式、もしくは動画配信型で実施をし、多くの方に参加いただきました。



外国人介護人材スキルアップ研修

「介護」を行うため大分県に来県した外国人の皆さんが、介護技術の基礎的知識や現場で使う日本語等について学ぶことで、県内の介護現場において円滑に就労・定着できるよう支援することを目的に、4会場で、「介護の日本語」「介護記録」「介護技術」「日本語検定試験模擬試験」などの内容を全9回（7月～11月 ※各会場月に1回のペース）開催しました。



介護の日本語研修の様子



介護技術研修の様子



模擬試験の様子

アドバイザー派遣事業

大分県において活動をしている外国人介護スタッフや受入施設、もしくはこれから受入を考えている施設の支援を行うために、「外国人介護人材受入・定着支援アドバイザー」を公募、選考し、延べ20名配置しました。

アドバイザーには、3種類あります。

要請に応じて、これから外国人介護人材の受入を考える施設等に対し、必要な助言等を行う

1 施設支援アドバイザー

具体的な活動例

「これから受入を考えているが、こういった制度があるのか、また何からすればいいのかのわからない」や、「受入を考えているが、当法人では複数の事業を展開しており、実際に来て、業務内容を見た上でアドバイスが欲しい」という施設からの要請を受けて、施設支援アドバイザーが施設を訪問し、制度説明や疑問の解消を行いました。また電話相談にも対応しました。

大分県の外国人介護スタッフのスキルアップや定着支援のために、訪問型研修の実施や集合型研修でのフォローアップやアドバイスなどを行う

2 外国人介護スタッフ支援アドバイザー

具体的な活動例

研修において日本語の授業のスピードについていけない受講生に対し、外国人介護スタッフ支援アドバイザーが横に座り、「やさしい日本語」でフォローをしたり、また、「日本語の勉強をもっとしたい」という外国人介護スタッフからの要請に対し、相談者が休みの日を利用して日本語ボランティアにつないだり…といった取組を行いました。

介護人材の受入推進のための企画・実施に向けて、必要な助言を行う

3 受入促進アドバイザー

具体的な活動例

海外現地で開催する大分県内就職（介護）や介護福祉士養成施設入学に向けた県主催の説明会等の開催にあたりアドバイザーから助言をいただきました。

項目

EPA

経済連携協定に基づく外国人介護福祉士候補者の雇用

介護

日本の介護福祉士養成校を卒業した介護福祉士「介護」を持つ外国人の雇用

技能実習

技能実習制度を活用した外国人（技能実習生）の雇用

特定技能

在留資格「特定技能1号」を持つ外国人の雇用

制度の目的

介護福祉士の国家資格取得を目的とした受入（国際連携の強化）

専門的・技術的分野への外国人労働者の受入

日本から相手国への技能移転（国際貢献）

人手不足対応のための一定の専門性・技能を有する外国人の受入

送り出し国

インドネシア・フィリピン・ベトナム

制限なし

制限なし

制限なし

在留資格

【特定活動】

「介護」
※但し、介護福祉士の国家資格取得前（養成校在籍中）は「留学」

1年目 【技能実習1号】
2-3年目 【技能実習2号】
4-5年目 【技能実習3号】

【特定技能1号】

在留期間

・国家資格取得前：
原則4年（一定条件を満たせば5年）
・国家資格取得後：
制限なしで更新可

制限なしで更新可能

1号：最長1年
2号（技能実習評価試験の合格後1号から以降）：最長2年
3号（技能実習評価試験の合格後2号から以降）：最長2年
最長5年（※1）

最長5年

家族の帯同

国家資格取得後可能（※2）

可能（※2）

不可能（※2）

不可能（※2）

外国人介護職員に求められる日本語能力

□インドネシア・フィリピン
現地で6ヶ月研修後、日本語能力試験N5程度以上で入国、入国後6ヶ月の研修を受けてから介護事業所で就労
□ベトナム
現地で12ヶ月研修後、日本語能力試験N3以上の合格で入国、入国後2.5ヶ月の研修を受けてから介護事業所で就労

日本語能力が次のいずれかに該当する者を選抜
□日本語能力試験でN2以上に合格した者
□法務大臣により告示されている日本語教育機関で6ヶ月以上教育を受け、入学選抜のための日本語試験でN2相当以上と確認された者
□日本留学試験の日本語科目で200点以上取得した者
□BJTビジネス日本語能力テストで400点以上取得した者（※3）

入国時
日本語能力試験N3程度が望ましい水準、N4程度が要件
入国から1年後（2号移行時）N3程度が要件
※1年後にN3程度に満たない場合は、当面、雇用されている事業所で介護の技能の習熟のために必要な日本語を学ぶことなどを条件に、引き続き3年目まで在留することが可能

入国前の試験等で下記の日本語能力水準を確認
・ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力
・介護の現場で働く上で必要な日本語能力
※技能実習3年を修了した者、又は介護福祉士養成施設を修了した者は、必要な日本語能力水準を満たしているものとし、試験等を免除

外国人介護職員に求められる知識・経験等

□インドネシア
インドネシアの看護学校（3年以上）卒業または高等教育機関（3年以上）卒業+インドネシア政府による介護士認定
□フィリピン
フィリピンの看護学校（学士）（4年）卒業、または4年制大学卒業+フィリピン政府による介護士認定
□ベトナム
3年制または4年制の看護課程修了

—

団体監理型の場合
外国において「同等業務従事経験」があること、または技能実習に従事することを必要とする特別な事業があること
企業単独型の場合
受け入れる事業所と密接な関係のある外国の機関の事業所の職員であること

入国前の試験等で下記の技能水準を確認
・受入業務で適切に働くために必要な水準
※技能実習3年を修了した者、または介護福祉士養成施設を修了した者は、必要な技能水準を満たしているものとし、試験等を免除

介護福祉士の国家試験の受験義務

国家試験の受験が必須
・不合格でも一定点数以上を取得できていれば1年間に限り滞在延長後の再受験が特例として可能
※帰国後も在留資格「短期滞在」で再度入国し国家試験を受験することが可能
・受入機関となる事業所は、国家資格取得のための研修とその支援体制を整えることが必須

国家試験の受験が必須
・平成29-33年度の介護福祉士養成校卒業者は、卒業後5年間、介護業務に従事するか国家試験に合格すれば介護福祉士の資格を継続できる

なし（任意）
※介護福祉士の国家資格を取得すれば、在留資格「介護」に変更することが可能

なし（任意）
※介護福祉士の国家資格を取得すれば、在留資格「介護」に変更することが可能

受入調整機関等

JICWELS
（公益社団法人国際厚生事業団）

なし
（介護事業所の自主的な採用活動）

団体監理型：各監理団体（※4）

登録支援機関によるサポート

勤務できるサービスの種類

（※5）介護保険3施設、認知症GH、特定施設、通所介護、通所リハ、認知症デイ、ショートステイ

制限なし

訪問系サービス以外

訪問系サービス以外

配置基準に含まれるまでの期間

日本語能力試験N2以上の場合は、雇用してすぐに配置基準に含まれる。それ以外の場合は雇用して6ヶ月たてばOK

雇用してすぐに、配置基準に含まれる

日本語能力試験N2以上の場合は、雇用してすぐに配置基準に含まれる。それ以外の場合は雇用して6ヶ月たてばOK

雇用してすぐに配置基準に含まれる（但し6ヶ月間受入施設におけるケアの安全性を確保するための体制が必要）

夜勤の可否

国家資格取得前：一部可（※6）
国家資格取得後：可

可能

条件（※7）付きで可能

可能

同一法人内の異動の可否

国家資格取得前：原則、不可
国家資格取得後：可能

可能

可能
但し、技能実習計画上技能等を修得するのに、その異動が必要と認められた場合のみ

可能

介護職種での転勤の可否

国家資格取得前：原則、不可
国家資格取得後：可能（※8）

可能

原則、不可

可能

※1：優良な監理団体及び実習実施者の場合／※2：家族とは「配偶者及び子ども」／※3：「日本介護福祉士養成施設協会が定める「外国人留学生受入に関するガイドライン」における入学者選抜の留意点より／※4：企業単独型は各企業／※5：介護保険法に規定されているもののみ記載（なお、介護福祉士取得後は、一定条件を満たした事業所の訪問系サービスも可）／※6：雇用して6ヶ月経過、もしくは日本語能力試験N1 or N2合格／※7：技能実習生以外の介護職員を同時に配置することが求められるほか、業界ガイドラインにおいても技能実習生以外の介護職員と技能実習生の複数名で業務を行う旨を規定。また夜勤業務等を行うのは2年目以降に限定する等の努力義務を業界ガイドラインに規定／※8：ただし、在留資格の変更の許可が必要

外国人介護職員を雇用できる4つの制度の概要及び比較

| | EPA 経済連携協定に基づく外国人介護福祉士候補者の雇用 | 介護 (※5) 日本の介護福祉士養成校を卒業した在留資格「介護」を持つ外国人の雇用 | 技能実習 技能実習制度を活用した外国人(技能実習生)の雇用 | 特定技能 在留資格「特定技能1号」を持つ外国人の雇用 |
|---|---|---|---|--|
| 雇用できる外国人介護職員は 介護福祉士 の資格を持っている？ | 資格なし 但し、資格取得を目的としている | 介護福祉士 | 資格なし 但し、実務要件等を満たせば、受験することは可能 | 資格なし 但し、実務要件等を満たせば、受験することは可能 |
| 外国人介護職員には ずっと働いてもらえるの？ | 資格取得後は 永続的な就労可能 一定の期間中に資格取得できない場合は帰国 | 永続的な就労可能 | 最長5年 (※1) (※2) | 最長5年 (※1) (※2) |
| 外国人介護職員は 母国での資格・学習経験 があるの？ | 看護系学校の卒業生 or 母国政府より介護士に認定 | 個人による | 監理団体の選考基準による | 個人による |
| 外国人介護職員の 日本語能力 の目安はどれくらい？ | 大多数は就労開始時点で N3程度 (※3) 入国時の要件は尼比N5程度、越:N3 | 一部養成校 (※4) の入学要件は N2程度 | 入国時の要件は N4程度 | 入国時の要件は ・ある程度日常会話ができ、生活に支障ない程度の能力 ・介護現場で働く上で必要な日本語能力 |
| 外国人介護職員の雇用にあたって 受入調整機関等の支援 はあるの？ | あり JICWELSによる受入調整 | なし | あり 監理団体による受入調整 | あり 登録支援機関によるサポート |
| 外国人介護職員が 就労可能なサービス種別 に制限はあるの？ | 制限あり 介護福祉士の資格取得後は、一定条件を満たした事業所の訪問系サービスも可能 | 制限なし | 制限あり 訪問系サービスは不可 | 制限あり 訪問系サービスは不可 |

※1：ただし、介護福祉士を取得すれば、在留資格「介護」を選択でき、永続的な就労が可能
 ※2：3年目まで修了した技能実習生は「特定技能1号」に必要な試験が免除される（在留資格を「特定技能1号」に変更した場合、技能実習と特定技能を合わせて最長10年となる）
 ※3：インドネシア・フィリピンの入国時の要件はN5程度だが、インドネシア人及びフィリピン人候補者の約90%が、6ヶ月間の訪日後日本語研修終了までにN3程度の日本語水準に到達（H30年度実績に基づく）
 ※4：「一部の養成校」とは、留学生の入学選抜において、日本語能力試験JLPTでN2以上に合格、もしくは日本語試験でN2相当以上と確認できることを要件としている介護福祉士養成校のことを指す
 ※5：在留資格「介護」には、介護福祉士養成校の卒業（養成校ルート）以外に、上記※1、※2の注釈でも説明があるように、他の在留資格からの移行（実務経験ルート）がある（各制度を参照）

外国人介護職員の受入に関する相談先一覧

| 制度 | 相談内容 | 相談先 | 電話番号 | HP |
|------|---|--|--------------|----|
| 大分県内 | 大分県における外国人介護人材受入に関する所管課 | 大分県福祉保健部 高齢者福祉課 | 097-506-2684 | |
| 大分県内 | 大分県における外国人介護人材受入推進・定着に関する研修等の実施 | 大分県社会福祉協議会 施設団体支援部 | 097-558-0300 | |
| EPA | EPAに基づく外国人介護福祉士候補者の雇用 | JICWELS (公益社団法人 国際厚生事業団) 受入支援部 | 03-6206-1138 | |
| 介護 | 介護福祉士を目指す留学生に関するあらゆる相談 | 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 介護福祉士を目指す留学生のための相談支援センター | 0120-07-8505 | |
| 技能実習 | 技能実習制度の技能実習生の雇用 | OTT (外国人技能実習機構) コールセンター | 03-3453-8000 | |
| | | JITCO (公益財団法人 国際人材協力機構) 実習支援部相談課 | 03-4306-1160 | |
| 特定技能 | 在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の雇用については、「地方出入国在留管理局」または、「地方出入国在留管理局支局」にお問い合わせください。 | | | |

制度に関する詳しい情報は、下記の厚労省HPよりご確認ください

| EPA | 介護 | 技能実習 | 特定技能 |
|------------------------------------|---|-----------------------------------|-------------------------------|
| EPA (経済連携協定)に基づく外国人介護福祉士候補者の雇用 | 日本の介護福祉士養成校を卒業した 在留資格「介護」をもつ 外国人の雇用 | 技能実習制度を活用した 外国人 (技能実習生)の雇用 | 在留資格「特定技能1号」を持つ 外国人の雇用 |

あ と が き

❓ 県内でも周辺部ではお店なども少なく、日々の買い物などに困難が生じるのではないかと心配な施設もあるそうですが…

今回ご紹介した施設も、すべてが中心部に立地しているわけではありません。しかし、例えば、施設の職員が買い出しに行くときに車で一緒に買い物に行ったり、ネット通販などを活用しているというお話も耳にしました。（「(ネット通販を使えば) 母国の調味料も買えるのよ!」と話してくれた方もいます。）また、田舎ならではの“おすそわけ”がとても嬉しいという声も聞かれました。

❓ やはり同じ国出身の方を、継続的に受け入れる方が良いのでしょうか？

今回ご紹介した中にも、複数の国から受け入れをしている施設もあります。

もちろん、同じ国出身であれば、母国語や文化などの共通点を活かせるというメリットはあると思います。

一方で、国籍が違っていても、異郷の地で介護を志している者同士共感できることは多いと思いますし、先輩が“やさしい日本語”で後輩を指導し、良い関係、良い職場づくりに成功している施設もあります。



❓ 取材を通して、どのようなことを感じましたか？

動画でマニュアルを作ったり、全ての漢字にルビをふったり、プロフィールカードを作成したり…。受入施設の方々は、共通して、外国人スタッフの皆さんをととても大切にしていることを感じました。

そして、外国人スタッフの皆さんは、「日本語・介護を一生懸命学ぼうという姿勢」はもちろんのこと、とにかく「明るくて前向き」な姿が印象的でした。そんな彼らが介護を行うのですから、多くの施設から、「外国人スタッフの皆さんが来てから、施設の雰囲気がとても明るくなった」という声が聞かれるのも、当然なのかもしれません。

印象的だった言葉として「“人対人”として関わることが大事」ということがあります。 “○○の国の人だから”ということではなく、“同じ職場で頑張る仲間”として受入れ体制を整えていることが、外国人スタッフ、そして施設全体の明るい雰囲気にも繋がっていくのだと思います。

「これからは（外国の方々に）施設の側が選ばれる時代が来る。だから、安心して介護を学べる環境、体制をしっかりと作っていくことが非常に重要です。」…とある施設長の言葉に、強い覚悟を感じました。

❓ 今後、みんなで協力して取り組めることはあるのでしょうか？

今回の取材の中で、「良い環境を整えたいと思っても、一施設で対応できることには限界がある」「介護福祉士になって、家族を日本に呼べるようになって、家族の働き先を見つけるのが難しい」といった声も聞かれ、結果として都市圏に人材が流出してしまうことに対する懸念の声は少なくありません。

大分県で、少しでも長く、安心して、介護に従事してもらうために、こういった取組が必要なのか、こういった課題があるのか、それらを一つひとつ整理して共有し、次の施策につなげていくことが、今後より一層大切になってくるものと思われまます。

至らない点もあったかと思いますが、「外国人介護スタッフ受入施設事例集」を最後までお読みいただきありがとうございました。

今回の事例集作成にあたり、事務局も11の施設の取材に同行させていただきました。

EPA・技能実習・留学など、様々な制度で、インドネシア・フィリピン・ミャンマー・ベトナム・中国・カンボジア・モンゴルと様々な国から、大分県にやってきて、介護に従事している外国人の方々。来日十数年目ですっかり大分弁をマスターしている方から、まだ数ヶ月の方まで、様々な外国人スタッフの方々との出会い、お話を聞くことができたことは、私達にとっても多くの学びを得る素晴らしい機会となりました。

取材にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

大分県社会福祉協議会 事務局

**令和2年度
外国人介護スタッフ受入施設事例集**

大分県福祉保健部 高齢者福祉課

〒870-8501
大分市大手町3丁目1番1号
TEL：097-506-2684
FAX：097-506-1737

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会

〒870-0907
大分市大津町2丁目1番41号
TEL：097-558-0300
FAX：097-558-1635

本誌の掲載内容は令和3年1月末時点の情報です。